

| 論文審査の結果の要旨および担当者 | |
|--|---|
| 学位申請者 | 金子 隆彦 |
| 論文担当者 | 主査 西 信一 |
| | 副査 越久 仁敬 |
| | 副査 平田 淳一 |
| 学位論文名 | Association between intraoperative phenylephrine administration and umbilical artery pH in women with hypertensive disorders of pregnancy: a retrospective cohort study (妊娠高血圧症候群合併妊婦における術中フェニレフリン投与と臍帯動脈血 pH の関係) |
| 論文審査の結果の要旨 | |
| <p>健常妊婦に対する予定帝王切開術では脊椎くも膜下麻酔後低血圧を半数以上の症例で認め、過度の低血圧は出生後の新生児予後を悪化させることが知られている。この脊椎くも膜下麻酔後低血圧の治療薬として α_1 受容体刺激薬であるフェニレフリン投与は β_1 受容体刺激が主作用であるエフェドリン投与と比べ、胎児への酸素供給の指標である臍帯動脈血 pH の低下を防ぐことが知られている。一方で、妊娠高血圧症候群妊婦に対するフェニレフリン投与の臍帯動脈血 pH に対する影響は十分に検討されていない。当該疾患の病因の一つとされるらせん動脈血管内皮置換不全のためフェニレフリン投与によりらせん動脈が収縮し、胎児胎盤血流が低下し、その結果として臍帯動脈血 pH が低下する可能性がある。</p> <p>本研究は兵庫医科大学病院で脊椎くも膜下麻酔により帝王切開術を施行した 107 例の妊娠高血圧症候群合併妊婦を対象とし、フェニレフリン投与による胎児胎盤血流低下の有無について臍帯動脈血 pH を用いて検討した後ろ向きコホート研究である。</p> <p>ロジスティック回帰分析と傾向スコアマッチング法の 2 つの方法を用いて検討した結果では臍帯動脈血 pH 低下とフェニレフリン投与の関連を認めなかった。さらに、新生児の予後と関連する APGAR score についてもフェニレフリン投与との関連は認めなかった。</p> <p>この結果は妊娠高血圧症候群妊婦の脊椎くも膜下麻酔後低血圧に対するフェニレフリン投与の安全性を示唆するものであると考えられる。今後は更に妊娠高血圧症候群の発症時期などを検討することが必要であると考えられた。</p> <p>申請者は本研究により妊娠高血圧症候群合併妊婦の帝王切開術における脊椎くも膜下麻酔後低血圧に対するフェニレフリンの安全性を示した点で学位授与に値すると判断した。</p> | |